



STRINGED MUSICAL INSTRUMENTS

MANDOLIN

取扱説明書



この度は、アリア製品をお買い求めいただき誠に有難うございます。アリア・マンドリンは優れた演奏性と高い品質を誇るブランドです。未長くお使いいただくためにも、本冊子を充分にお読みいただくようお願い申し上げます。

切れてケガをする恐れがあります。特に切れた弦が目に入ると目を傷付け、場合によっては失明の恐れがありますので、弦を交換するときには顔を弦に近付けないようにしてください。

ピックガードのエッジでのケガに注意

ピックガードを使用しているモデルでは、エッジの部分がシャープな形状にデザインされているモデルがあります。プレイするときやクロスでボディを拭くときには手をケガしないよう注意してください。

楽器を家具などに立てかけない

楽器を使用しないときには、湿気の多い場所や火の近くをさけ、ケースにしまい低い場所に置かずスタンドに立てて倒れにくい状態で保管してください。高い場所から落下したり、倒れるとケガや家具などを傷付ける原因になります。また、楽器を直接家具などに長時間立てかけると、表面の塗装を溶かしたり色移りする場合がありますので注意してください。

楽器を持ち運ぶときの注意

楽器をバッグやケースで持ち運ぶときには、ファスナーや止め金をしっかりと締め、バッグのショルダーストラップのフックがしっかりかかっていることを確認してください。落下してケガをしたり物をこわす恐れがあります。また、バッグのファスナーやケースのフタで指をはさんでケガをすることがありますので十分に注意してください。

楽器の保管と運搬

- 楽器は木製品ですから、過酷な温度・湿度条件には弱いものです。長時間自動車の中やストーブの近く、湿気の多い所などに放置すると、塗装ワレ・ネック反りなどをおこし、さらにはボディのヒビワレなど回復不能な故障を起こすことがあります。楽器にも住み心地の良い場所を与えてあげてください。
- 長期間使用せずにおく場合、季節による条件にも留意する必要があります。冬期には暖房によって室内もかなり乾燥しますから、押入れの下段など比較的空気の乾燥しない所においてください。また、夏期や特に雨季にはケース内に乾燥剤を入れたり、時々ケースから出すことも大切です。
- 楽器の保管と運搬にはハードケースのご使用をお勧めします。運搬の際、最

使用上のご注意

湿気の多い場所では使わない

水気、湿気の多い場所、風呂場、雨の日の野外では使用しないで下さい。

分解、改造、修理をしない

分解、改造、修理は故障の原因になります。

弦に顔を近付けない

演奏中や弦の交換、調整をするときに弦に顔を近付けないでください。弦が切れて顔にケガをする場合があります。特に切れた弦が目に入ると目を傷付け、場合によっては失明の恐れがあります。

さびた弦を使わない

さびた弦を張ったまま使用すると、指を切ってケガをすることがあります。さびた弦はできるだけ早く新しい弦と交換してください。

フレットのエッジでのケガに注意

ネックの乾燥により、フレットが指板からはみ出してくる場合があります。このような状態で使用するとフレットのエッジで手などにケガをすることがありますので注意してください。フレットがはみ出してきた場合には、すぐ使用をやめ、お店を通して修理を依頼してください。

楽器の手入れ

楽器の表面の手入れには、専用のクリーナーやポリッシュをご使用ください。また、スプレータイプのものを使用するときには、換気、火気に十分注意してください(スプレーに書いてある注意書きを必ず読んでください)。シンナーやベンジンを使用しますと塗装やピックガードを傷め、変質したり変色したりすることがありますので、使用しないで下さい。

弦で指を傷付けないよう注意する

弦の先、切断面は非常に鋭くなっていますので、手を触れて手を傷付けないよう注意してください。チューニングやヘッドをクロスで拭く時には、弦の先端に手が触れないよう注意しながら行ってください。弦を交換した時には、弦の余った部分が手に触れないよう短く切り揃えてください。

弦を張り過ぎない

チューニングなどのために弦を張る時に、必要以上に強く弦を張りますと、

も起きやすい事故はネック折れですから、ネック受け部とボディー受け部のしっかりした、ケースごとふつても内部で楽器が動かないハードケースを選んでください。バック型のは持ち運びに便利ですが、車による運搬等には危険です。

●使用しない期間が短い場合、弦はチューニングしたままでかまいません。長期間使用しない場合(1ヶ月以上)は糸巻のツマミを1~2回転分ゆるめておく安全です。ゆるめすぎたり、弦を外してしまうのもかえってよくありません。

●本体が汚れた場合は別売のシリコンクロスで軽く拭きとってください。汚れがひどい場合は、別売のポリッシュを本体またはクロスに少量かけ、軽く拭きとってください。スプレーを使用した場合、最初は少し曇ったようになりますが、乾いたクロスで良く拭き取れば本来の輝きに戻ります。

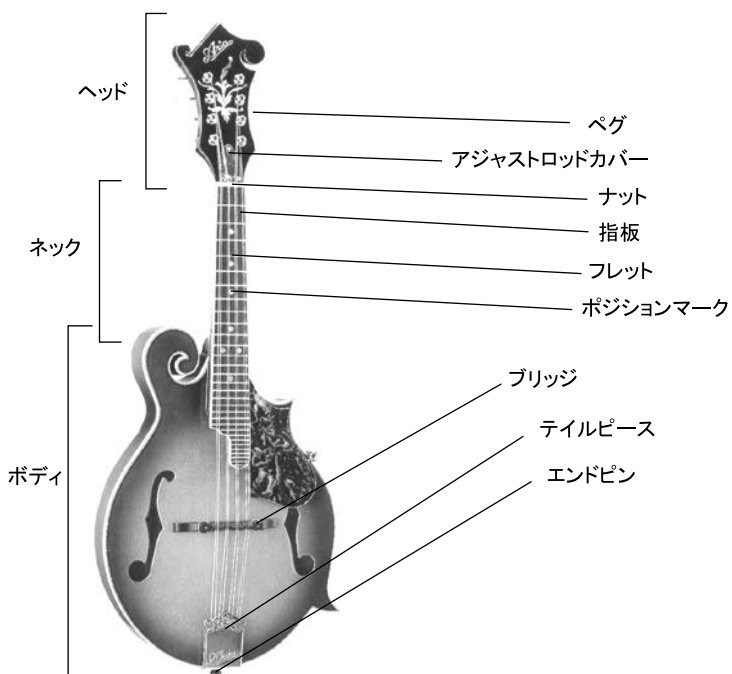
メーカーおよび一部のスプレーについては、使用上不適当なものがあります。お買い上げになった小売店などからアドバイスを受けてと良いでしょう。

保証について

保証期間は商品によって1年または半年となっています。

保証期間であっても、故障の内容によっては修理代金をいただく場合がありますので、詳しくは保証書をご覧ください。

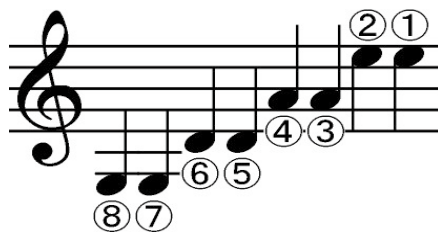
各部の名称



*ピックアップの搭載されたモデルにはコントロールノブが付いています。(SB-20E等) それぞれのコントロールの特性を理解した上でご使用下さい。
 ボリューム: ギターの音量を調整します。右に回すと音は大きくなり、左に回すと小さくなります。
 トーン: ギターの音質を調整します。左に回すと高音域がカットされ音質は柔らかくなります。

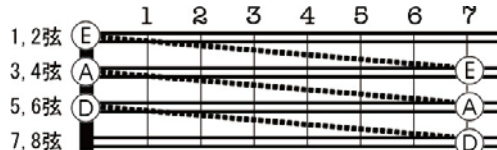
チューニングの合わせ方

チューニングにはさまざまな方法がありますが、その中から代表的な方法をあげてみました。開放弦を使った実音による方法です。



マンドリンの弦は2本一組で同じ調弦になります。すなわち、1弦2弦がE、3弦4弦がA、5弦6弦がD、7弦8弦がGとなります。

●最初にマンドリンの第3弦と4弦の開放をA440Hzに音叉・チューナーなどを使って合わせます。
 この場合、第3、4弦の12フレットでのハーモニクス音で合わせる方法もあります。そしてこの第3、4弦を基準に各弦を合わせてゆきます。



●マンドリンの実音を合わせるには、次のように行います。

- ①第1、2弦の開放と第3、4弦の第7フレット(E)
- ②第3、4弦の開放と第5、6弦の第7フレット(A)
- ③第5、6弦の開放と第7、8弦の第7フレット(D)

●チューニングは、一度だけでは完全に合いにくいものです。一度チューニングしたあと、一弦づつ少し引っぱり上げて、ノビ・アソビをなくし再度チューニングする——これを2~3回繰り返せば、新しい弦でも正しいチューニングを得ることができます。

弦の巻き方



- 左サイド(低音側)は図①のように巻きます。
- 右サイド(高音側)は図②のように巻きます。
- この方法で巻けば、余った弦は1cm程残して切っても大丈夫です。



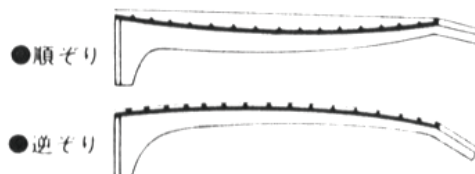
音が以前に比べて悪くなってきた、ピッチ(音程)が合わない、弦が黒く汚れている。このようなときには弦を交換してください。

弦は張ったすぐ後では本来の音が出ません。正しい音程に合わせた上で、弦がなじんだ時がベストです。そうすることによって楽器が本来持つ音色を楽しんでいただくことができます。

ストリングポスト全体を使い、弦が十分に巻き付いている状態が望ましく、チューニングは最も安定します。巻き付ける回数は弦のゲージによって異なりますが、裸弦の場合6~8回、巻弦の場合3~4回が適当です。

調整

いつも良い状態で演奏するには、時折楽器を調整する必要があります。アリア・マンドリンは最適な状態で出荷されていますので改めて調整を行う必要はありません。また、楽器の調整にはある程度の慣れと経験が必要ですので、楽器に慣れてきた頃に少しずつ行うのが良いでしょう。



ネック調整

ネックが反っていると、ビリつき、音程の狂い、弦高が高すぎる、または低すぎるなどの原因となり、満足な演奏ができません。

●ネックの状態のチェックは、弦を正しくチューニングしてから始めます。ネックが弦に負けて弦高が高くなっている状態を順反りといい、逆に弦高が低くなってビリつきやすくなっている状態を逆反りといいます。いずれの場合も、ネックの内部に埋め込まれているトラスロッドを締めたり、ゆるめるなどして調整します。

●トラスロッドを使用するときは、弦をゆるめてから行います。順反りの場合はヘッドから見て時計回りに締め、逆反りの場合は逆に反時計回りにしてゆるめます。トラスロッドの調整位置はモデルによって異なります。それぞれ付属のレンチで調整してください。



*ヘッド側に内蔵されているタイプでは、アジャスターカバーをはずしてから調整します。

*調整の際はしっかりとレンチを差し込んで、トラスロッドのナットをつぶさないように気を付けてください。*モデルによってはトラスロッド調整機能がないものもあります。

弦高調整

弦の高さを調整するには、ブリッジの2つの金属リングを回転させて行います。左に回すと高くなり、右に回すと低くなります。



ブリッジの位置調整

マンドリンのブリッジ位置は、Fホール中央部に合わせて調整します。弦交換などの際にブリッジがずれた場合は、図を参考にして位置調整を行って下さい。